

教科	科目	単位数	学年次	集団
家庭	家庭基礎	2	1	各HRごと

使用教科書	副教材等
東京書籍 「家庭基礎 自立・共生・創造」	教育図書 家庭科55デジタル+ (plus)

科目の目標
生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することを目指す。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
② 思考・判断・表現	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生活を見通して生活の課題を解決する力を養う。
③ 主体的に学習に取り組む態度	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

評価方法
授業への取り組みの観察、ワークシートへの記述の点検・確認・分析、定期テストや提出物、作品等の内容を観点別に総合して評価する。

学習計画

月	【単元名】	【使用教科書項目】	単元や題材など内容のまとめりごとの学習	評価の観点		
				①	②	③
4	家庭科の学び方	家庭科の学び方	・ 自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践しようとする。 ・ 自立した生活を営むために、生涯発達の視点からライフステージの特徴と課題を理解する。他	○	○	○
5	第1章生涯を見通す	人生を展望する	・ 生涯を見通して自分のライフスタイルを考えることができるように、さまざまな生き方について理解する。 ・ よりよい家庭生活を実現するために、家族・家庭と私たちの生活の結び付きを理解する。 ・ 社会制度としての家族や家族と法律を理解する。他	○	○	○
5	第2章人生をつくる	家族・家庭を見つめる これからの家庭生活と社会	・ 持続可能な社会を構築するために、持続可能な消費や生活について理解し、ライフスタイルを工夫する。 ・ 一人の主体者として、社会全体をよりよい方向に動かしていこうとする。	○	○	○
6	第10章持続可能な生活を営む	持続可能な社会を目指して	・ 私たちが被服を着用するに至った、社会的・文化的背景と被服の多様な機能や特徴について理解する。 ・ 用途に合った着装を実践できる力を身につけるために、社会生活を営むうえでの被服の役割を理解する。他	○	○	○
7	第7章衣生活をつくる	被服の役割を考える／ 入手する／管理する／ 衣生活の文化と知恵／ これからの衣生活	・ 命に対する責任や、社会の一員として次世代を育む責任を持つために、性と生殖に関する健康について理解する。 ・ 子どもの発達に応じて適切に関わるようになるために、子どもが生まれつき持っている能力や心身の発達について理解する。 ・ 子どもが健康・快適・安全に育つ環境を整えられるようになるために、子どもの生活習慣や衣食住について理解する。他	○	○	○
9	第3章子どもと共に育つ	命を育む／子どもの育つ力を知る／子どもと関わる／子どもとの触れ合いから学ぶ／ これからの保育環境	・ 高齢社会の背景を理解する。 ・ 高齢者が生きがいを持って生活するためには、家族や地域によるどのような支援が必要か、考える。 ・ 高齢に伴う心身の変化や高齢者の生き方や尊厳について理解を深める。 ・ 高齢期を支える社会の仕組みや課題について考える。他	○	○	○
10	第4章超高齢化社会を共に生きる	超高齢・大衆長寿社会の到来／ 高齢者の心身の特徴／ これからの超高齢社会	・ 誰もが生涯を通して自分の力を生かし、必要に応じて援助を得ながら安心して暮らせる社会に向けて、家族・家庭生活を支える福祉について理解する。 ・ 共に支え合う社会の実現に向けて、国・地方公共団体の制度などの支援体制、支え合いの構造について理解する。他	○	○	○
	第5章共に生き、共に支える	私たちの生活と福祉／ 社会保障の考え方／ 共に生きる	・ 生涯を見通した住生活について考え、将来に向けて自立するために、私たちの毎日の生活を支える生活拠点となる住居の機能やライフステージごとの住要求を理解する。 ・ 自らの住生活に生かすことができるよう、防災、日照、換気などに関する環境性能について理解を深め、快適かつ健康、安全な生活を行う場となる住居の条件を理解する。他	○	○	○
11	第8章住生活をつくる	住生活の変遷と住居の機能／ 安全で書いて粹な住生活の計画／ 住生活の文化と知恵／ これからの住生活	・ 自立した責任ある消費者として、よりよい意思決定ができるよう、現代の消費生活における意思決定の重要性と情報の活用について理解する。 ・ 毎日の生活におけるさまざまな契約について理解する。 ・ 販売方法や支払い方法が多様化する中で責任ある消費行動が取れるよう、契約の重要性について理解する。 ・ 消費者には権利と責任があることを理解する。 ・ 消費者問題を予防し適切に対応できるように、消費者保護制度について理解する。 ・ 消費者の権利と責任の変遷を踏まえて、どうすれば消費者市民社会が実現できるか考えて実践しようとする。他	○	○	○
	第9章経済生活を営む	情報の収集・比較と意思決定／ 購入・支払いのルールと方法／ 消費者の権利と責任／ 生涯の経済活動を見直す／ これからの経済生活	・ よりよい食習慣を身につけ、生涯を健康に過ごすために、食生活の課題や食事の意義、食生活を取り巻く環境の変化などを理解する。 ・ 自分や家族が健康に過ごす食生活に役立てるために、栄養素の種類と機能や食品の栄養的特質や調理性について、科学的な理解を深める。 ・ 安全で衛生的な食生活を営むために食品の選び方、保存や加工の方法、食中毒や食物アレルギー、安全を確保するための仕組みに関する知識を身につける。 ・ 自分と家族の食生活を計画・管理できるようになるために、各ライフステージの食生活の特徴や課題を理解し、「健康にいい、栄養バランスのよい食事」とはどのようなものかを理解する。他	○	○	○
12	第6章食生活をつくる	食生活の課題について考える／ 食事と栄養・食品／ 食生活の選択と安全／ 生涯の健康を見通した食事計画／ 調理の基礎／ 食生活の文化と知恵／ これからの食生活	・ 人生の目標を達成し、自分らしい生活が実現できるよう、各ライフステージの課題や生活資源、リスク管理について振り返りながら生活設計ができるようになる。 ・ これから持続可能な社会を構築していくために、何ができるか考えて実践しようとする。	○	○	○
1	第11章これからの生活を創造する	生活をデザインする		○	○	○